

製品名: CD152 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08220**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:50-1:200, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:10000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	CTLA4 CD152
別名	Cytotoxic T-lymphocyte protein 4 (Cytotoxic T-lymphocyte-associated antigen 4; CTLA-4; CD antigen CD152)
遺伝子 ID	1493.0
SwissProt ID	P16410
免疫原	アミノ酸配列範囲: 41-90 のヒトタンパク質からの合成ペプチド

背景

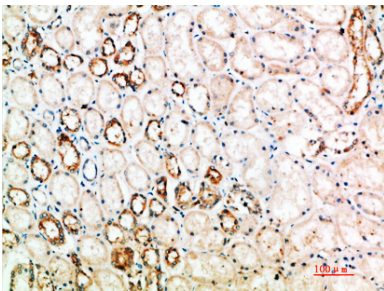
この遺伝子は免疫グロブリンスーパーファミリーに属し、T細胞に抑制シグナルを伝達するタンパク質をコードします。このタンパク

質は、Vドメイン、膜貫通ドメイン、および細胞質末端を含みます。異なるアイソフォームをコードする代替転写スプライスバリエントが特徴付けられています。膜結合型アイソフォームはジスルフィド結合によって相互接続されたホモダイマーとして機能し、可溶性アイソフォームはモノマーとして機能します。この遺伝子の変異は、インスリン依存性糖尿病、バセドウ病、橋本甲状腺炎、セリアック病、全身性エリテマトーデス、甲状腺関連眼窩症、およびその他の自己免疫疾患と関連付けられています。 [RefSeq 提供、2008年7月];疾患: CTLA4の遺伝子変異は全身性エリテマトーデス (SLE) の感受性に影響を与える[MIM:152700]。SLEは、慢性炎症性で、しばしば発熱を伴う結合組織の多臓器疾患である。主に皮膚、関節、腎臓、漿膜に影響を及ぼす。SLEは、自己免疫系の制御機構の不全を示すものと考えられている。;疾患: CTLA4の遺伝子変異は、セリアック病3型 (CELIAC3) の感受性の原因である[MIM:609755]。セリアック病[MIM:212750]は、環境因子と遺伝子の両方の影響を受ける小腸の多因子疾患である。セリアック病は、小麦グルテンまたは関連するライ麦や大麦のタンパク質を摂取した後に小腸粘膜の炎症性損傷に起因する吸収不良を特徴とします。典型的な形態では、小児における吸収不良と発育不全を特徴とします。;疾患: CTLA4の遺伝子変異は、インスリン依存性糖尿病12型 (IDDM12) の感受性の原因です[MIM:601388]。;疾患: CTLA4の遺伝子変異は、バセドウ病 (GRD) の感受性の原因である可能性があります[MIM:275000]。GRDは、甲状腺の過剰な活動と甲状腺機能亢進症を引き起こす自己免疫疾患です。;疾患: CTLA4の遺伝子変異は、B型肝炎ウイルス感染症 (HBV 感染症) の感受性と関連しています[MIM:610424]。肝硬変症例の約3分の1、および肝細胞癌症例の約半数は、慢性HBV感染に起因すると考えられています。HBV感染は、潜在性または無症候性の感染、急性の自然治癒型肝炎、または肝移植を必要とする劇症肝炎を引き起こす可能性があります。;機能: T細胞の活性化に関与している可能性があります。B7-1 (CD80) および B7-2 (CD86) に結合します。;オンライン情報: CLTA-4 エントリー;類似性: Ig様V型 (免疫グロブリン様) ドメインを1つ含みます。;組織特異性: リンパ組織で広く発現しており、最も高いレベルで発現しています。;

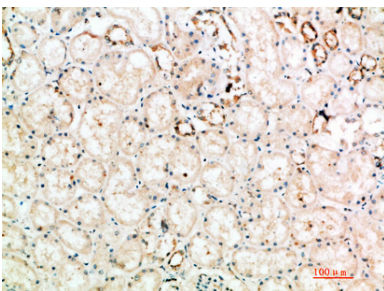
研究分野

細胞接着分子 (CAM) ;T細胞受容体;自己免疫甲状腺疾患;

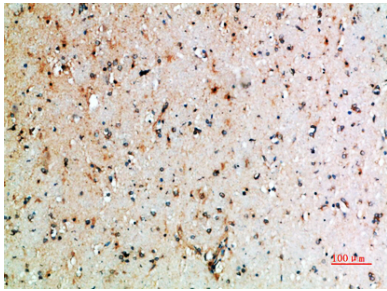
画像データ



パラフィン包埋ヒト腎臓の免疫組織化学分析、抗体は1:200に希釈された



パラフィン包埋ヒト腎臓の免疫組織化学分析、抗体は1:200に希釈された



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学分析、抗体は 1:200 に希釈された